

研究やビジネスには好環境が整っている人工島ポートアイランドの医療産業都市。しかし、通勤の利便性向上や、にぎわいのある街並みづくりといった面では道半ばだ。研究者やビジネスパーソン、医療関係者にとって居心地の良い空間にするための模索が続いている。

平日の午前8時過ぎ。神戸市中心部の三宮とポートアイランド、神戸空港を結ぶポートライナーは混雑のピークを迎える。今年4月に計測した8時10〜40分の平均乗車率は134%。東京や大阪の通勤ラッシュよりはましだが、医療産業都市に向かう通勤客や大学生らで混み合う。1車両にドアが1つしかなく天井も低い。そのため圧迫感も強い。このままでは企業誘致の

## 進出企業の交流/通勤ラッシュ緩和

足かせになりかねない。このため、2016年4月から6両の新車両を2編成増強する。午前8〜9時の運行本数は現行の23本から28本に増え、1時間当たりの最大輸送人員は現在の1万3500人から1万2600人に増える。16年春の混雑率は対策を実施しなかった場合の160%から大幅に改善される見通しだ。神戸市も混雑緩和に向けた社会実験として、三宮や神戸駅からポートアイランドに向かうバスを走らせている。混雑は医療産業都市に拠点を構える企業の増加や大学の相次ぐ進出によるものだが、それが街のにぎわいにつながっていないのが課題だ。そこで、まずは進出企業同士の親交を深めてもらおうと毎月開催している「クラスター交流会」

## 「後方支援」へ街づくり



午前8時台、ポートライナーは多くの通勤客、大学生で混み合う(三宮駅)

だ。市が音頭を取り、医療産業都市内の施設のホールやロビーなどに軽食を用意し、各回50〜100社が参加する。インフラ面では、16年中期に「京コンピュータ前」駅前に完成予定の創業拠点ビルに、周辺の研究者らの利便性を高めるための実験室

だけでなく、コンビニエンスストアや共用会議室を備える。将来はグランフロント大阪(大阪市)にある産学連携拠点「ナレッジキャピタル」のような施設も必要になってきそうだ。神戸市などは東灘区の六甲アイランドからポートアイランドを経て垂水区の名谷ジャンクションにつながる「大阪湾岸道西伸部」の早期整備を国に求めている。神戸港を利用する物流会社の移動がスムーズになり経済活性化への期待もあるが、ポートアイランドの住民にとっては騒音などが問題になりかねない。地元への配慮を踏まえながらどのようなにぎわいのある街づくりを進めていくか。35年目を迎えたポートアイランドはここ数年のうちに岐路を迎えそうだ。

には約40%に達する「超高齢社会」になる見通し。介護やリハビリにロボットは有力な手段になる。アジアもいずれは高齢社会を迎え、この分野は日本にとって有力な輸出産業になり得る。同病院の陳隆明ロボットリハビリテーションセンター長は「高齢化で先行する日本だからこそ他の手本になる。政府の成長戦略とも一致する」と語る。新たな拠点ではロボットを患者らに臨床現場で使ってもらって機能や使い勝手を再評価し、より良いものになるよう磨き上げる。神戸市が研究開発の助言や市場調査支援で協力し、兵庫県はロボットの認証制度の創設を検討するなど官民を挙げた取り組みになる。19年10月には、義手や義足の技術向上などをテーマに約70カ国の医師や義肢装具士が集まる「国際義肢装具協会(ISPO)世界大会」が神戸市のポートアイランドで開催される。政府の後押しも受けて30年ぶりの誘致に成功した。中心となって誘致活動を展開した陳センター長は「世界に日本の技術を発信する場になりたい」と意気込む。

# 箕描く

## 「生活の質」向上を目指す

神戸市では医療とIT(情報技術)との融合や医療ロボットの開発など先進的な取り組みが盛んになってきた。加えて、力を入れ始めているのが介護やリハビリの分野だ。高齢者らの「生活の質」を高める技術やサービスを研究開発する。

8月27日、身につけるウェアラブル端末の医療分野への活用に向けたマッチングイベント「神戸医療ITイノベーションカンファレンス」が医療産業都市で開

催された。スマートグラス(眼鏡型のウェアラブル端末)を開発するアリアン・トサービス(大阪市)などITベンチャー4社と、神戸などに拠点を構える企業関係者や医師ら1000人以上が集まった。部分人工膝関節手術で国内トップクラスの実績を持つ高槻病院(大阪府高槻市)の平中崇文副院長は基調講演で、スマートグラスについて「医療分野で破壊的なイノベーションになる」と

強調。会場からも「菓のダブルチェックに活用したい」「もっと普通の眼鏡のようなデザインがいい」など積極的な意見が出た。医療用ロボットの開発を進めているのは、シスメックスと川崎重工の折半出資会社、メテカロイド(神戸市)だ。橋本康彦社長(川重執行役員)ロボットビジネス(センター長)は「医療産業都市は医療機関や企業から得られる情報量が圧倒的に多い」と語る。同社は2

013年に神戸医療産業都市に拠点を設け、大学病院などの医療機関や企業、行政と連携しながら前立腺や子宮の摘出といった手術を支援するロボットを19年度に発売する計画だ。医療だけでなく、ロボット技術をリハビリや介護にも活用する動きが始まっ

た。その中核施設となるのが兵庫県立リハビリテーション中央病院(神戸市)だ。15年度中に病院施設の一部をリニューアルし、介護、リハビリロボットの開発拠点を設置する。日本は高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)が25年に約30%、60年



組みを加速させる。――医薬品や医療機器以外の取り組みも目立ちます。「特に力を入れていきたいのは、神戸の既存のものづくり産業に介護用品や介護器具といった新しい分野へ進出してもらいたい。神戸は食品産業がかなり実績して